熊取町埋蔵文化財調査報告第29集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XI

平成９年３月

熊取町教育委員会

はしがき

熊取町では現在38ヶ所の遺跡が周知されていますが、近年の急速な土地開発などにより、埋蔵文化財の破壊と消滅の危機に瀕しています。そこで昭和60年度から国庫補助を受け、町主体の発掘調査を実施し、これまで貴重な文化財の記録保存に努めてまいりました。12年間にわたり蓄積してきた記録は、先人達がこの地で営々と築き上げてきた文化そのものであり、そこから先人達の知恵を学び取り、さらに未来の私達の生活へ活かし、より良い社会を築いていくのに役立つものといえるでしょう。

本書は平成８年度中に国庫補助事業として実施した調査成果を概要報告書としてまとめたものです。いずれも小規模な調査で十分な成果を挙げ得たとはいえませんが、地域史解明のための一助として広く活用していただければ幸いです。

最後に、現地での発掘調査にあたってご理解とご協力をいただきました関係者各位に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成９年３月

熊取町教育委員会

教育長　甲田　太三郎

例　　言

1．本書は、熊取町教育委員会が平成８年度国庫補助事業として計画し、文化課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査概要報告書である。

2．調査は、熊取町教育委員会社会教育部文化課文化財係職員前川　淳、永井　仁を担当者として、平成８年４月１日に着手し、平成９年３月31日をもって終了した。

3．本書は、報告書の作成の都合上平成８年４月１日から同年12月27日までの発掘調査成果及び平成７年度事業で昨年度報告できなかった平成８年１月５日から３月31日までの調査成果を掲載することとした。

4．本書における図面の標高はＴ．Ｐ．（東京湾平均潮位）を用い、また方位は地図以外については磁北を示すこととした。

5．本書における図面の土色は『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修　1990年度版）を用いて目視により比定した。

6．本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員の参加を得た。
尾上賢一郎、貝戸雄幸、川東士朗、桑原良治、阪口雅美、関井澄子、山本恵子、横山隆寛

7．本書の執筆は各担当者が行い、文末に文責を示した。また編集は永井が行った。

目　　次

第１章　はじめに……1

第２章　地理的環境と周知の遺跡……1
　第１節　地理的環境……1
　第２節　周知の遺跡……2

第３章　調査成果の概要……4
　第１節　久保Ｂ遺跡の調査……4
　第２節　東円寺跡の調査……5
　　１．96－４区の調査……5
　　２．96－５区の調査……6
　　３．96－７区の調査……7
　第３節　久保城跡の調査……8
　　１．96－１区の調査……8
　　２．96－２区の調査……9
　第４節　大谷池遺跡の調査……10
　　１．95－１区の調査……10
　　２．96－１区の調査……11
　第５節　池ノ谷遺跡の調査……12

第４章　おわりに……13

挿　図　目　次

第１図　熊取町の位置……1
第２図　熊取町遺跡分布図……3
第３図　久保Ｂ96－１調査地点位置図……4
第４図　久保Ｂ96－１調査区位置図……4
第５図　久保Ｂ96－１土層断面図……4
第６図　東円寺跡96－４調査地点位置図……5
第７図　東円寺跡96－４調査区位置図……5
第８図　東円寺跡96－４土層断面図……5
第９図　東円寺跡96－５調査地点位置図……6
第10図　東円寺跡96－５調査区位置図……6
第11図　東円寺跡96－５土層断面図……6
第12図　東円寺跡96－７調査地点位置図……7
第13図　東円寺跡96－７調査区位置図……7
第14図　東円寺跡96－７土層断面図……7
第15図　久保城跡96－１調査地点位置図……8
第16図　久保城跡96－１調査区位置図……8
第17図　久保城跡96－１土層断面図……8
第18図　久保城跡96－２調査地点位置図……9
第19図　久保城跡96－２調査区位置図……9
第20図　久保城跡96－２土層断面図……9
第21図　大谷池95－１調査地点位置図……10
第22図　大谷池95－１調査区位置図……10
第23図　大谷池95－１土層断面図……10
第24図　大谷池96－１調査地点位置図……11
第25図　大谷池96－１調査区位置図……11
第26図　大谷池96－１土層断面図……11
第27図　池ノ谷96－１調査地点位置図……12
第28図　池ノ谷96－１調査区位置図……12
第29図　池ノ谷96－１土層断面図……12

図　版　目　次

図版第１　久保Ｂ遺跡96－１区
図版第２　東円寺跡96－４区
図版第３　東円寺跡96－５区
図版第４　東円寺跡96－７区
図版第５　久保城跡96－１区
図版第６　久保城跡96－２区
図版第７　大谷池遺跡95－１区
図版第８　大谷池遺跡96－１区
図版第９　池ノ谷遺跡96－１区

第１章　はじめに

平成８年度における文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数（平成８年12月27日現在）は、37件であり、昨年の同時期は29件であったことから増加を示している。

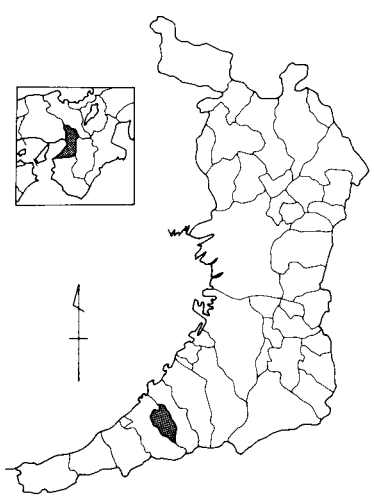
本書では、平成８年度国庫補助事業として実施した久保Ｂ遺跡１件、東円寺跡３件、久保城跡２件、大谷池遺跡１件、池ノ谷遺跡１件、平成７年度事業で実施した大谷池遺跡１件の以上９件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成８年度国庫補助事業一覧表

遺　跡　名	所　在　地	申請者名	申請面積	調査年月日	担当者
久保Ｂ遺跡96-1	久保1121-3	田畑雅康	444.32㎡	19960430	前川
東円寺跡96-4	野田2397-1	藤原浩	369.46㎡	19960924～0927	前川
東円寺跡96-5	紺屋286-13	前田年数	50.50㎡	19961007～1009	永井
東円寺跡96-7	紺屋286-12	堀良雄	120.40㎡	19961015	永井
久保城跡96-1	久保1582-1	道端信行	421.47㎡	19961002	永井
久保城跡96-2	久保34-1	上野トミヱ	196㎡	19961227	永井
大谷池遺跡95-1	大久保北2-1-2	赤池かおり	271.04㎡	19960229	前川
大谷池遺跡96-1	大久保北2-238-3	五十嵐次男	130.08㎡	19961111	前川
池ノ谷遺跡96-1	野田486-1	根来美好	637㎡	19961113～1121	永井

第２章　地理的環境と周知の遺跡

第１節　地理的環境



第１図　熊取町の位置

熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉形を呈している。町域の総面積は約17.19㎢を有する（第１図）。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約３分の２を占めている。

地域別に見ると、町南部においては泉南地域の基本山地となる和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている（第２図）。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。

町域に水源を持つ河川は見出川・雨山川・住吉川の３水系が存在している。３河川とも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。いずれの河川も下流部が他市域を流れることに加えて、本町が瀬戸内気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの潅漑用の溜め池を目にすることが出来る。

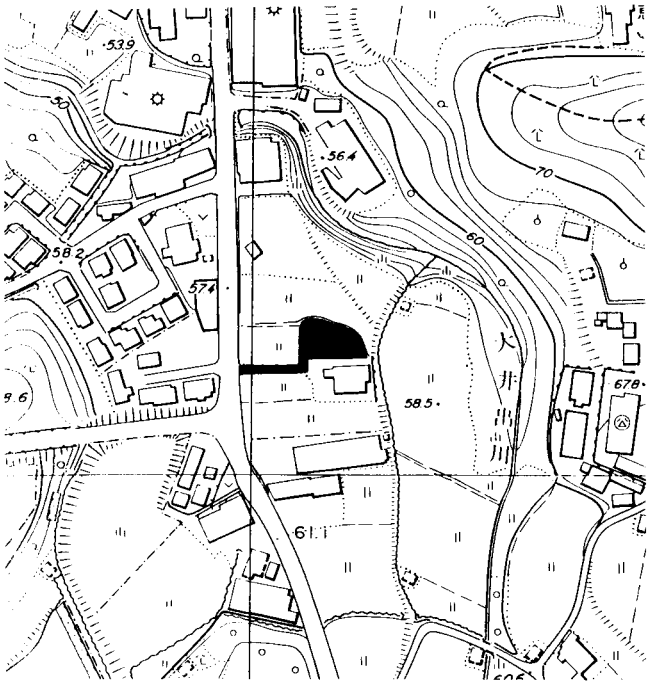
第２節　周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

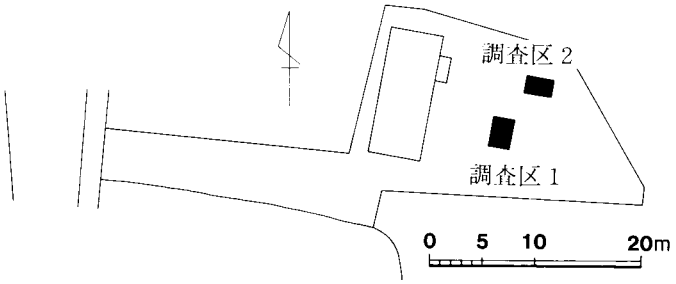
	周知の遺跡名	種　類	時　代	地目	立　地	主な成果等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平　地	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平　地	江戸初期から明治期までの陶磁器等出土
3	来迎寺本堂	寺　院	鎌　倉	宅地	丘陵腹	15～16世紀の陶磁器や畑作遺構を検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平　地	
5	甲田家住宅	建造物	江　戸	宅地	平　地	
6	東円寺跡	寺院跡	弥生～江戸	宅地	平　地	縄文・奈良・鎌倉～室町・江戸の複合遺跡
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室　町	宅地	丘　陵	
8	成合寺遺跡	墓　地	室　町	畑地	丘陵腹	14世紀代の600基以上の土壙墓群等検出
9	高蔵寺城跡	城郭跡	室　町	山林	山　頂	土塁・掘切等の構築物が確認されている
10	雨山城跡	城郭跡	鎌　倉	山林	山　頂	月見ノ亭・馬場・千畳敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘　陵	須恵器等を採取するも現在消滅
12	五門北古墳	古　墳	古　墳	宅地	丘　陵	古墳参考地、現在消滅
13	五門古墳	古　墳	古　墳	宅地	丘　陵	古墳参考地、現在消滅
14	大浦中世墓地	墓　地	室　町	墓地	平　地	享徳４年（1445）銘の五輪塔の地輪出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌　倉	水田	平　地	的場・矢の倉等の字名、瓦器片多数出土
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌　倉	宅地	平　地	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平　地	
18	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室　町	山林	丘　陵	
19	正法寺跡	寺院跡	鎌　倉	宅地	丘　陵	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江　戸	道路	丘　陵	毘沙門堂跡
21	金剛法寺跡	寺院跡	室　町	宅地	平　地	大森神社神宮寺、現在消滅
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室　町	山林	丘　陵	
23	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室　町	山林	丘陵腹	
24	花成寺跡	寺院跡	室　町	山林	丘　陵	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平　地	屋敷地の区画溝や江戸初期の陶磁器等検出
26	大久保Ａ遺跡	散布地	江　戸	宅地	平　地	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌　倉	田	平　地	
28	大久保Ｂ遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平　地	弥生末～古墳初中心の遺物多数出土
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平　地	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	
31	大久保Ｃ遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平　地	
32	千石堀城跡	城郭跡	室　町	山林	丘　陵	天正年間（1573～92）の雑賀衆徒の城
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平　地	平安末～鎌倉初の遺構・遺物検出
34	大久保Ｄ遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平　地	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平　地	13～14世紀の瓦器等出土
36	久保Ａ遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平　地	
37	大久保Ｅ遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平　地	弥生末～古墳初の遺物多数出土
38	久保Ｂ遺跡	集落跡		宅地	平　地	

第２図　熊取町遺跡分布図

第３章　調査成果の概要



第３図　久保Ｂ96-１調査地点位置図



第４図　久保Ｂ96-１調査区位置図

第１節　久保Ｂ遺跡の調査

本遺跡は久保城跡、鳥羽殿城跡といった中世以降の遺跡に囲まれる状況下にあり、鎌倉から室町期の瓦器を中心とする土器を包含する。しかし目下のところ柱穴などの明確な遺構は検出していない。

96-１区の調査

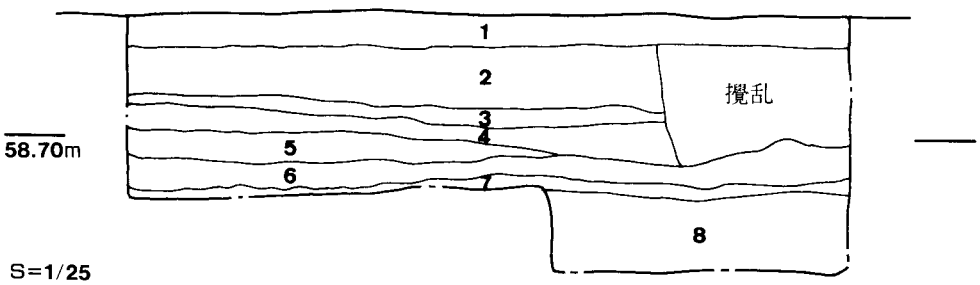
今回の調査地点は久保Ｂ遺跡の南端に位置する。調査は個人専用住宅の増築工事に先だって平成８年４月30日に発掘調査を実施した。

第４図のように調査対象地の中央部と南東端に調査区を２カ所設定して、機械と人力掘削を行って第５図のような調査区の地層を観察することができた。

土層は両調査区とも同様を呈しており、上から個人住宅の造成時の整地土①、江戸時代の耕作土②・③があり、現地表下35cm以下に中世の包含層⑤・⑥・⑦が存在している。この包含層は耕作土の可能性が高く、地山と考えられる層⑧の面を実に平滑に削平した上で累重している。

遺物は瓦器を中心とするが、いずれも１cm程度の細片で実測にはおよばなかった。

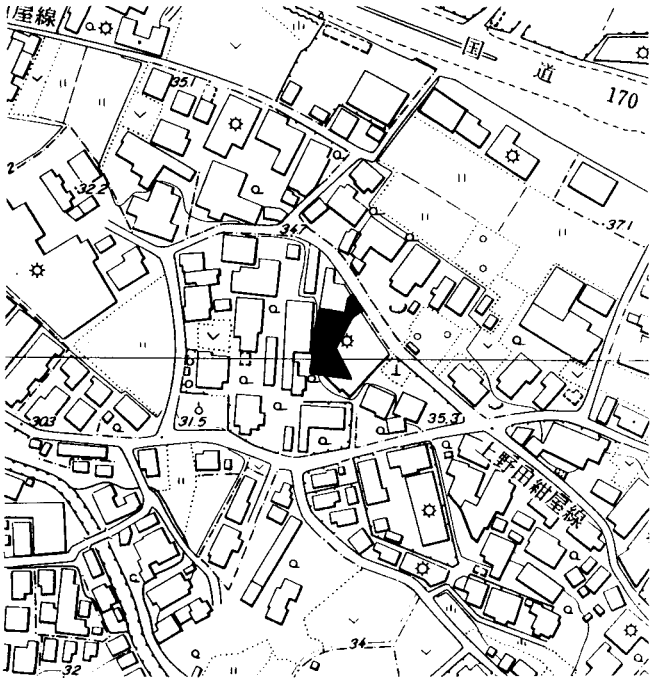
今回の開発が包含層の深度に及ばないことを確認したうえで、写真撮影と実測図を作成し埋め戻しを行って調査を終了した。（前川）



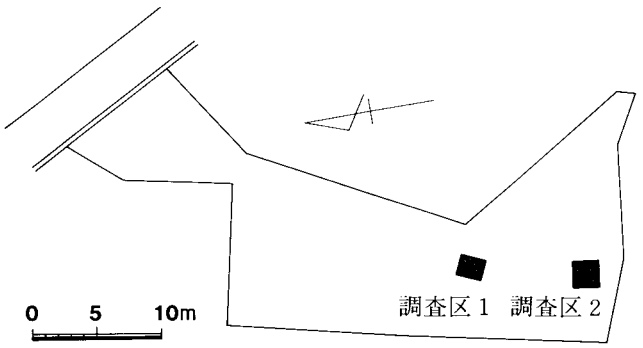
調査区１　東壁

1　10YR　7/0　客土
2　10YR　7/1　砂質土（耕作土）
3　10YR　6/3　砂質土（耕作土）
4　10YR　6/2　砂質土（耕作土）
5　10YR　5/2　砂質土（耕作土）
6　10YR　5/1　砂質土（耕作土）
7　10YR　6/6　砂質土（耕作土）
8　2.5Y　6/3　砂（地山）

第５図　久保Ｂ96-１土層断面図



第６図　東円寺跡96-４調査地点位置図



第７図　東円寺跡96-４調査区位置図

第２節　東円寺跡の調査

遺跡名となっている東円寺は調査により出土した瓦や文献・小字名より平安末期の建立と考えられているが、その実態は不明確なままである。しかし平成６年に実施した調査では、800㎡で150基もの柱穴を検出し、東円寺との関連が考えられる成果を挙げている。

１．96-４区の調査

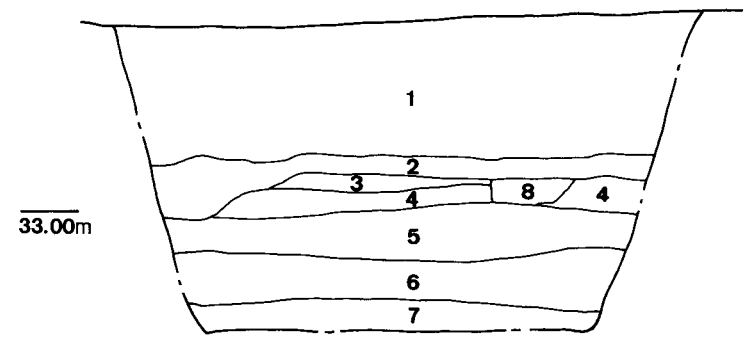
本調査地点は東円寺跡の範囲の中央部やや西よりに位置する。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成８年９月24日から27日に調査を実施した。

第７図のように調査区を２ヶ所設定し、現地表下１ｍまで人力掘削を行ったところ第８図のような調査区の地層を観察することができた。

両調査区とも地層に相違はなく、上から近現代の造成の際の盛土①、近現代の耕作土が３層②・③・④とさらに江戸時代のものと考えられる耕作土⑤があり、遺物包含層が２層⑥・⑦存在している。さらに遺物を含まない灰黄褐色の砂質土が続くが、地山と考えられる地層を検出するにはいたらなかった。遺構はなく、また包含層に含まれる遺物も粉砕と摩耗の度合が大きく実測に耐えるものではなかった。

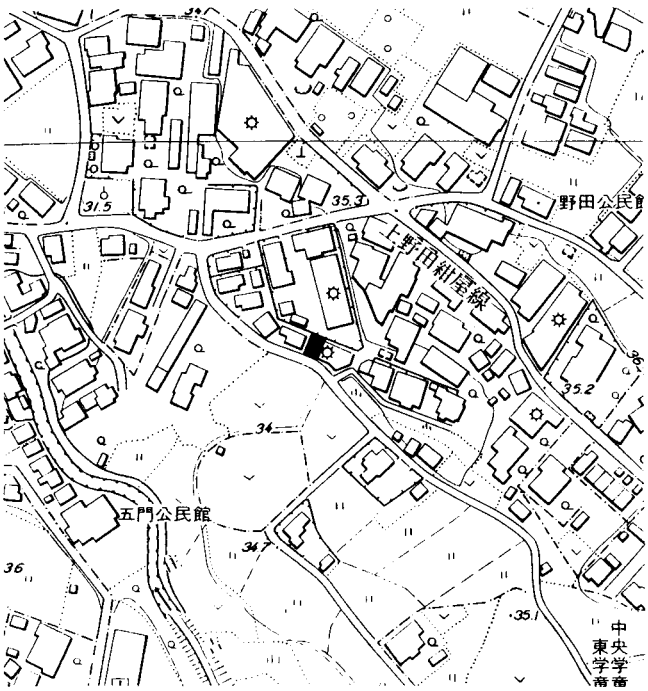
今回の開発が包含層に達する懸念はないことから写真撮影と実測図を作成を行って調査を終了した。

（前川）

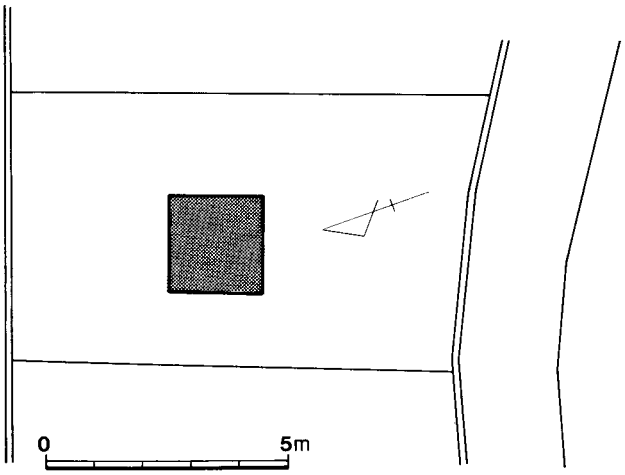


1	盛土（現代）			
2		N/3	灰色	砂質土（近代耕作土）
3	7.5Y	6/1	灰色	砂質土（斬移近代耕作土）
4	10YR	7/6	明黄褐色	粘質土（床土）
5	2.5Y	7/6	明黄褐色	粘質土混じり砂質土
6	2.5Y	6/1	黄灰色	砂質土（マンガン斑混）
7	10YR	6/1	褐灰色	砂質土（マンガン斑混）
8	10YR	5/2	灰黄褐色	砂質土（マンガン斑多混）

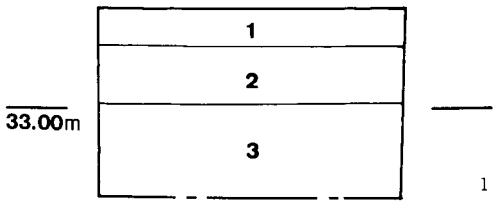
第８図　東円寺跡96-４土層断面図



第９図　東円寺跡96-５調査地点位置図



第10図　東円寺跡96-５調査区位置図



東壁断面柱状図

1　2.5Y　3/1　黒褐色　　粘質土（現代盛土）
2　2.5Y　6/3　にぶい黄色　粗砂（〃）
3　10BG　6/1　青灰色　　粘質土（〃）

S=1/25

第11図　東円寺跡96-５土層断面図

２．96-５区の調査

本調査地は東円寺跡の南端に位置し、熊取町役場から南西に260ｍの位置に所在する。現状は更地である。

調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成８年10月７日から９日の２日間で調査を実施した。

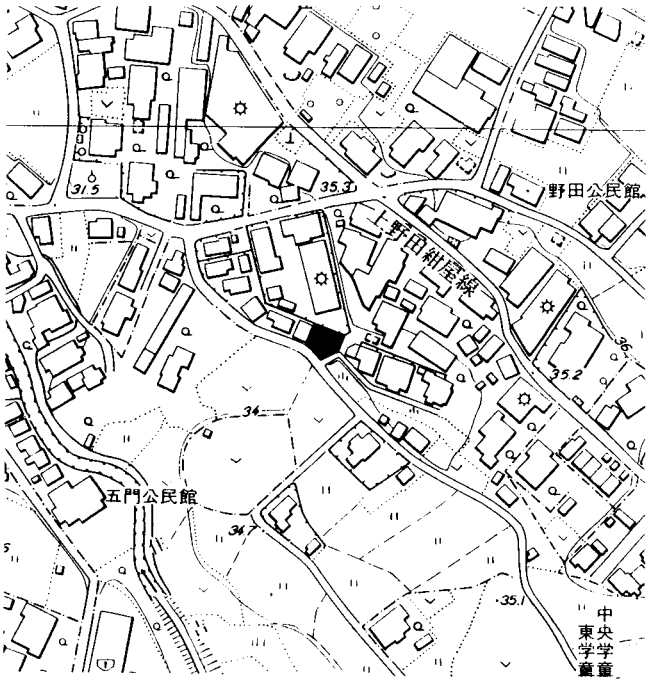
第10図のように調査対象地の中央部に調査区を１ヶ所設定して、人力掘削を行って第11図のような調査区の地層を観察することができた。

土層は当該土木工事により破壊される現地表面下60cmまで堀り下げたが、全て近代の盛土であった。

近年まで建物が建っていたが、その建設当時による盛土であると思われる。遺物も一切出土しなかった。

周辺の調査により当地周辺は湿地帯であったことが判明しており、近年の宅地化の際に大幅な盛土を行ったことが推測できる。今回の開発による文化財への影響は全くないとして調査を終了した。

（永井）



第12図　東円寺跡96-７調査地点位置図

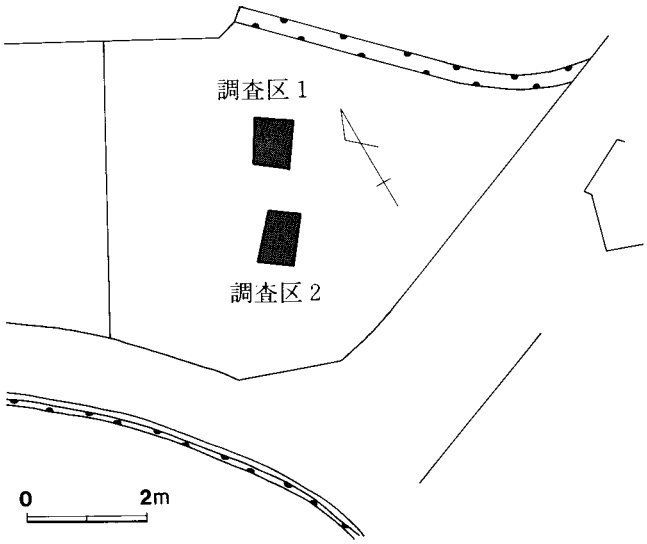
３．96-７区の調査

本調査地は東円寺跡の南端に位置し、熊取町役場から南西に260ｍの位置に所在する。現状は更地である。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって人力掘削により平成８年10月15日に調査を実施した。

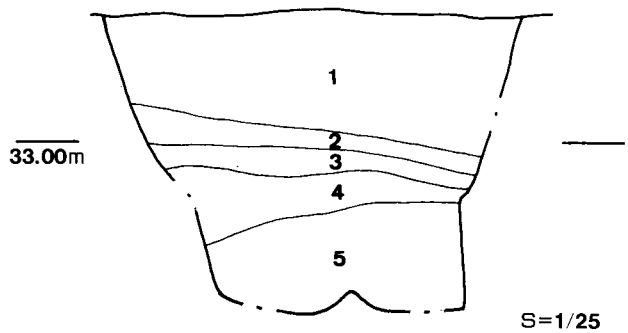
第13図のように調査対象地の北側と南側の計２ヶ所の調査区を設定し、人力掘削を行って第14図のような調査区の土層を観察することができた。

土層は当該土木工事により破壊される現地表面下60cmまで掘り下げたが、全て近代の盛土であった。

近年まで建物が建っていたが、その建設当時による盛土であると思われる。遺物も一切出土しなかった。当調査地は前述の96-５区に隣接地でありその様相も同様である。（永井）



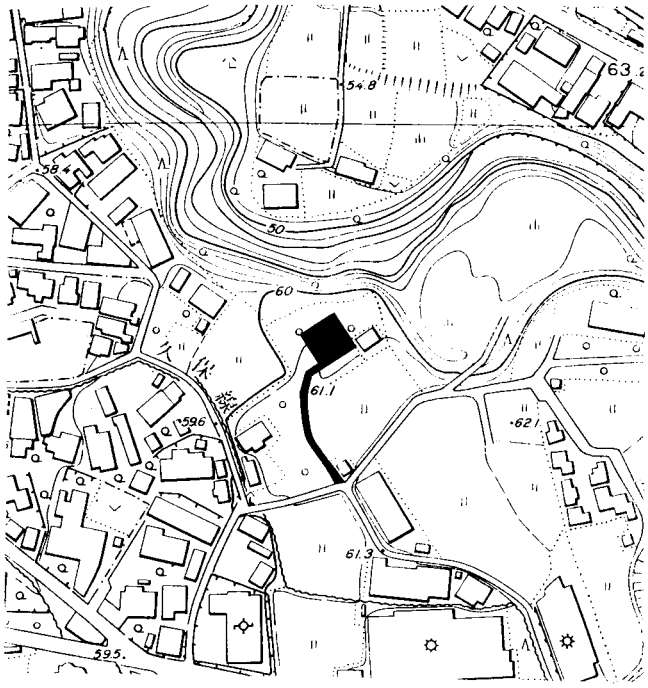
第13図　東円寺跡96-７調査区位置図



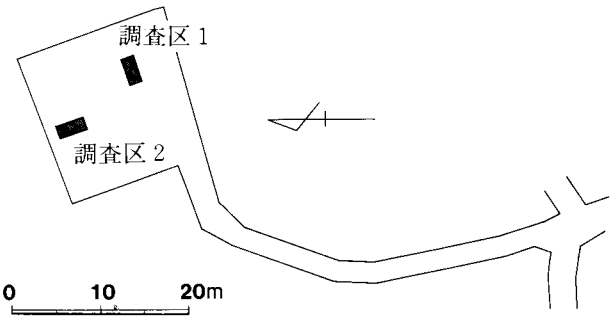
調査区１北壁

1	10YR	5/4	にぶい黄褐	
2	10YR	2/1	黒	灰
3	10YR	5/6	黄褐	粘質土
4	2.5Y	7/8	黄	粘質土
5	2.5Y	6/8	明黄褐	粘質土

第14図　東円寺跡96-７土層断面図



第15図　久保城跡96-１調査地点位置図



第16図　久保城跡96-１調査区位置図

第３節　久保城跡の調査

本遺跡は見出川の左岸に残る「矢の倉」「的場」等の小字名より中世城郭の存在を窺わせるが、現在城郭に直接関する遺構などは未だ検出していない。

１．96-１区の調査

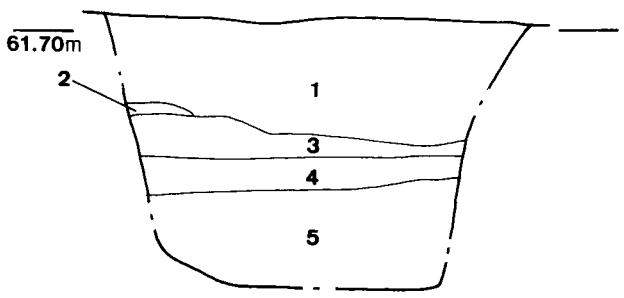
本調査地は久保城跡の中央やや西よりに位置し、熊取町役場から東南東約1.4kmの位置に所在する。現状は宅地である。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成８年10月２日に調査を実施した。

第16図のように調査対象地の北側と南側に計２ヶ所の調査区を設定し、機械掘削を行って第17図のような土層を観察することができた。

土層は両調査区とも同様を呈しており上から近年の宅地整地の際の盛土層①・②、近代まで行われていた耕作に関係する耕作土層③・④、黄褐色砂質土の無遺物層⑤である地山を確認できた。

久保城推定地の中心からやや離れているが、当地周辺において中世期には開発が行われていたはずであり、その痕跡が確認できないと言うことはそれ以降に行われた耕地化の際に当時の遺構面は削平されているようである。また遺構・遺物は一切出土していない。

今回の開発による文化財への影響はないとして調査を終了した。（永井）

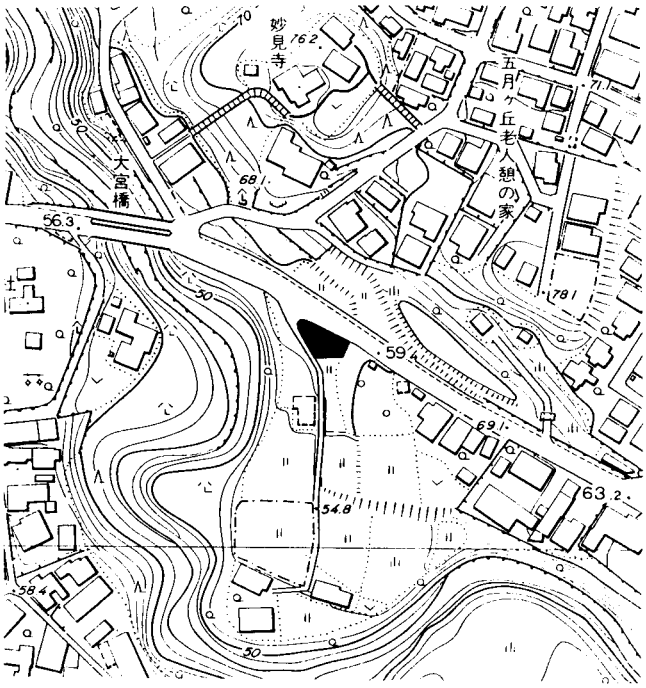


調査区１東壁

S=1/25

1	7.5YR	4/4	褐色	（近代盛土）
2	2.5Y	6/4	にぶい黄色	砂
3	5Y	3/2	オリーブ褐色	粘質土（旧耕作土）
4	2.5Y	4/2	暗灰黄色	粘質土（赤褐色粘質土混・旧耕作土）
5	10YR	5/4	にぶい黄褐色	砂質土（地山）

第17図　久保城跡96-１土層断面図



第18図　久保城跡96-２調査地点位置図

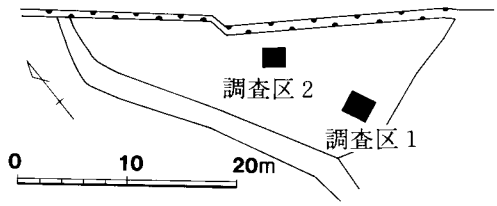
２．96-２区の調査

本調査地は久保城跡の北端に位置し、熊取町役場から東南東に約1.3kmの位置に所在する。現状は荒蕪地である。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成８年12月27日に発掘調査を実施した。

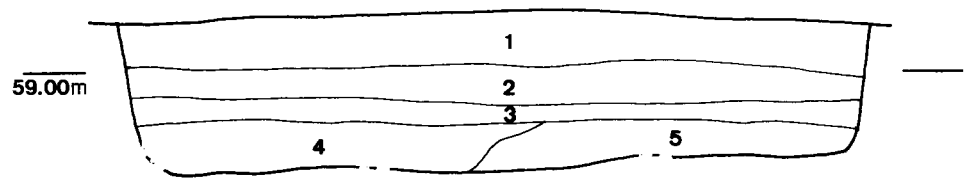
第19図のように調査対象地に計２ヶ所の調査区を設定し、機械掘削を行って第20図のような土層を観察することができた。

土層は、両調査区とも同様を呈しており、上から現表土層①、近年まで行われていた耕作土層②、中世期と思われる堆積層③、黄橙色系の無遺物層である地山④・⑤となっている。

本調査地は中世期の堆積層は認められるものの、遺物は包含しておらず、また遺構も一切検出しておらず、今回の開発により文化財への影響はないとして調査を終了した。（永井）



第19図　久保城跡96-２調査区位置図



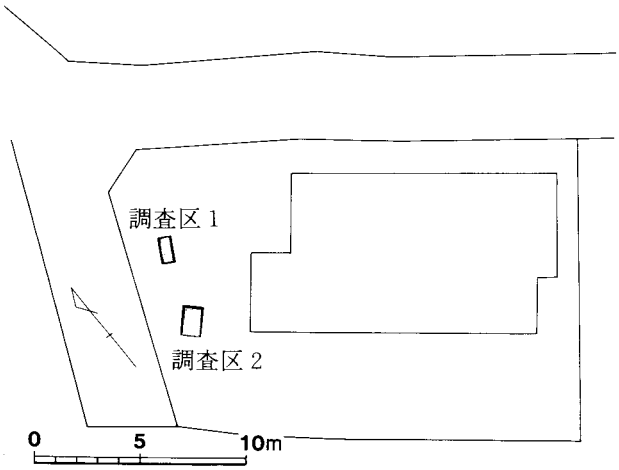
調査区２　南壁

S=1/25

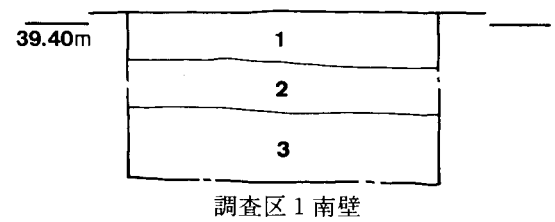
1	10YR	3/4	暗褐色	砂質土（現表土）
2	10YR	5/3	にぶい黄褐色	砂質土（旧耕作土）
3	10YR	6/2	灰黄褐色	粘質土
4	10YR	7/1	灰白色	粘質土（地山）
5	10YR	8/3	浅黄橙色	砂質土（地山）

第20図　久保城跡96-２土層断面図

第21図　大谷池95-１調査地点位置図



第22図　大谷池95-１調査区位置図



調査区１南壁

S=1/25

1　7.5YR　4/1　褐灰色
2　7.5YR　7/8　黄橙色
3　7.5YR　4/3　褐色

第23図　大谷池95-１土層断面図

第４節　大谷池遺跡の調査

大谷池の所在する丘陵裾は住吉川によって形成された低地部がひろがっており、本町において最も古くから人々の暮らしがはじめられた所と考えられ、弥生時代後期頃よりの複合遺跡である大久保Ｂ・Ｅ遺跡が所在する。したがって本遺跡もこれらの遺跡群との関連も十分考えられるが、現在まで遺跡の性格等を窺い知れる成果は挙がっていない。

１．95-１区の調査

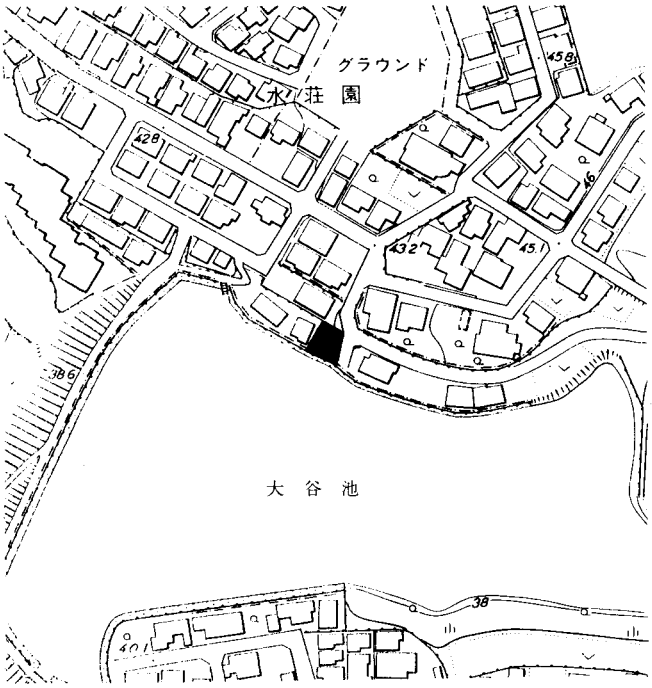
本調査地は大谷池の中央部北岸に位置する。個人専用住宅の増築工事に先だって平成８年２月29日に発掘調査を実施した。

第22図のように調査対象地の中央部に調査区を２ヶ所設定して人力掘削を行って、第23図のような調査区の地層を観察することができた。

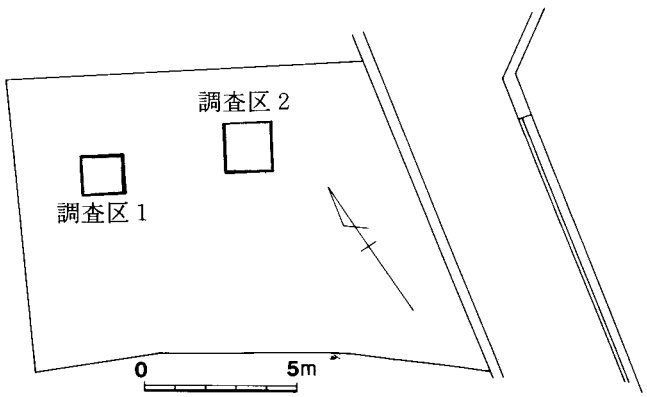
土層は基本的に宅地造成による大幅な盛土①・②の上に住宅の庭土③が存在する。

大谷池の池岸を形成する旧来の地層はこれよりはるか下に存在していると思われ、今回の開発による破壊のおそれはないものと確信を得て調査を終了した。

なお造成時の盛土の中に遺物は一切検出されなかったこともあわせて報告する。（前川）



第24図　大谷池96-１調査地点位置図



第25図　大谷池96-１調査区位置図

２．96-１区の調査

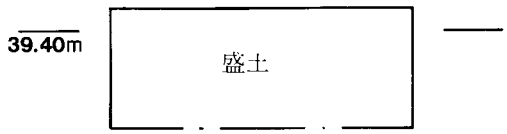
本調査地は大谷池中央部北岸に位置し、前項の95-１区の調査地点のすぐ向に面している。

個人専用住宅の改築工事に先だって平成８年11月11日に発掘調査を実施した。

第25図のように調査対象地に調査区を２ヶ所設定し開発深度にあたる現地表下40cmまで人力掘削を行ったところ第26図のような調査区の地層を観察することができた。

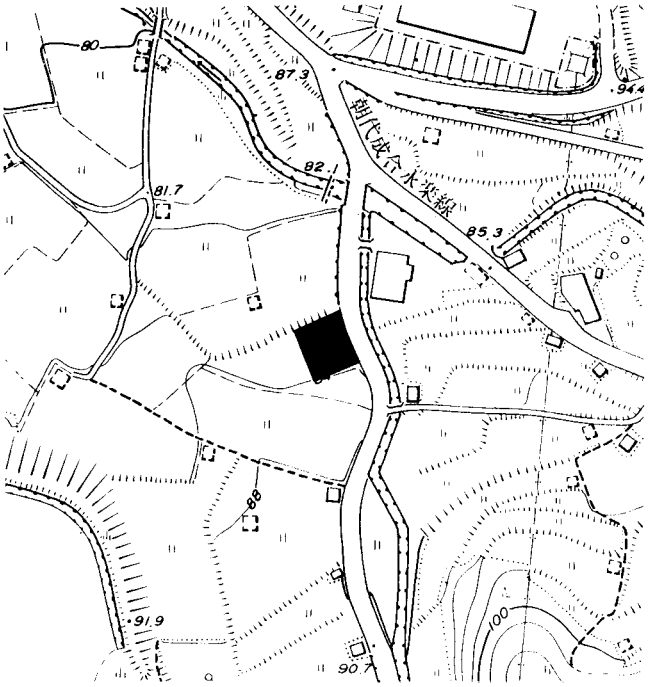
両調査区とも基本的に相違はなく、宅地造成における盛土、その上に庭土が観察される。また地山等の宅地造成以前の層はこれよりもまだはるか下に存在するものと思える。

調査による遺物は一切なく、今回の開発が大谷池北岸の旧来の地層に達するおそれがまったくない事を確認したうえで調査を終了した。（前川）

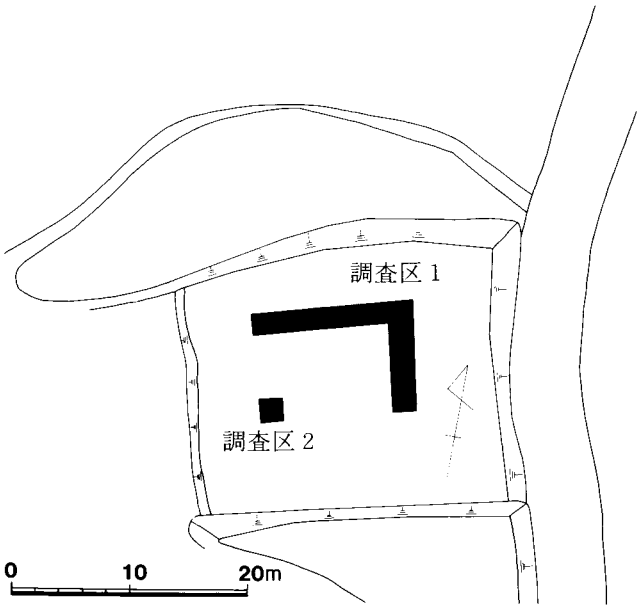


調査区１　断面柱状図

第26図　大谷池96-１土層断面図



第27図　池ノ谷96-１調査地点位置図



第28図　池ノ谷96-１調査地点位置図

第５節　池ノ谷遺跡の調査

本遺跡は昭和56年の分布調査でチャート製の石器や剥離片が採取されており、旧石器時代の遺跡が考えられるようになった。以来小規模な調査を実施しているが、詳細は不明である。

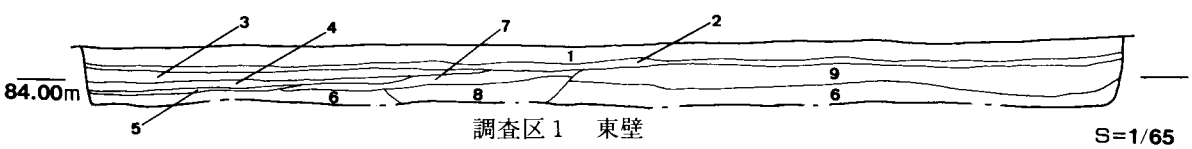
96-１区の調査

本調査は池ノ谷遺跡の中央部に位置し、熊取町役場より南に約2.65kmの位置に所在する。現状は畑地である。調査は個人専用住宅の新築工事に先だって平成８年11月13日から21日までの４日間で調査を実施した。

第28図のように調査区を設定し、人力掘削を行って第29図のような調査区の土層を観察することができた。

土層は現在まで行われていた耕作土①・②、近年の整地層③・④、明治期以降の陶磁器を僅かに含んでいる近代整地層⑤・⑥・⑦、その下層に明黄褐色砂質土の無遺物層⑧を確認した。遺構は一切検出していない。

本調査地は丘陵地に造られた耕作地であるため、大幅な整地作業が行われたと思われ、旧来存在していたであろう土層や遺構面は削平されている様である。また旧来本遺跡は旧石器の散布地として周知されているが、旧石器時代の遺物は一切確認できずに終了した。（永井）



1	10YR	3/2	黒褐色	砂質土（耕作土）	6	2.5Y	7/6	明黄褐色	砂質土（地山）
2	10YR	6/8	明黄褐色	砂質土（床土）	7	10YR	5/8	黄褐色	砂質土
3	10YR	7/8	黄橙色	粘質土（砂礫多含）	8	2.5Y	6/4	にぶい黄橙色	砂質土（礫多含）
4	2.5Y	6/3	にぶい黄色	砂質土（礫多含）	9	2.5Y	6/6	明黄褐色	粘質土（礫多含）
5	2.5Y	6/4	にぶい黄色	砂質土					

第29図　池ノ谷96-１土層断面図

第4章　おわりに

久保Ｂ遺跡、東円寺跡、久保城跡、大谷池遺跡、池ノ谷遺跡の５遺跡で計９件の国庫補助事業に伴う発掘調査成果の概要を説明してきた。いずれの調査でも成果として特筆できる遺構、遺物等は検出することはできなかった。以下に今後の課題も含めてまとめてみる。

東円寺跡の調査については、寺院自体については未だ不明確ながらも、付近一帯の歴史的様相は既往の調査成果の蓄積により、徐々にではあるが解りつつあるという状況である。今回の調査地点は中心部から離れた地点であったためか、新たな知見は得られなかったものの、96-４区では僅かではあるが瓦器などの遺物を含む分厚い包含層を検出しており、鎌倉から室町期に確実に開発等があったことを示している。また本遺跡の西隣に所在する口無池遺跡において時期はやや下がるが東円寺跡で確認しているものと同方向・同規模の水田または畑作に関すると思われる溝状遺構を検出しており、中世村落としての様相は西方向への拡がりを認識させるものであり、今後の調査によりさらに範囲は拡がると考えられ、周辺地域においても重要なものになると言えるだろう。

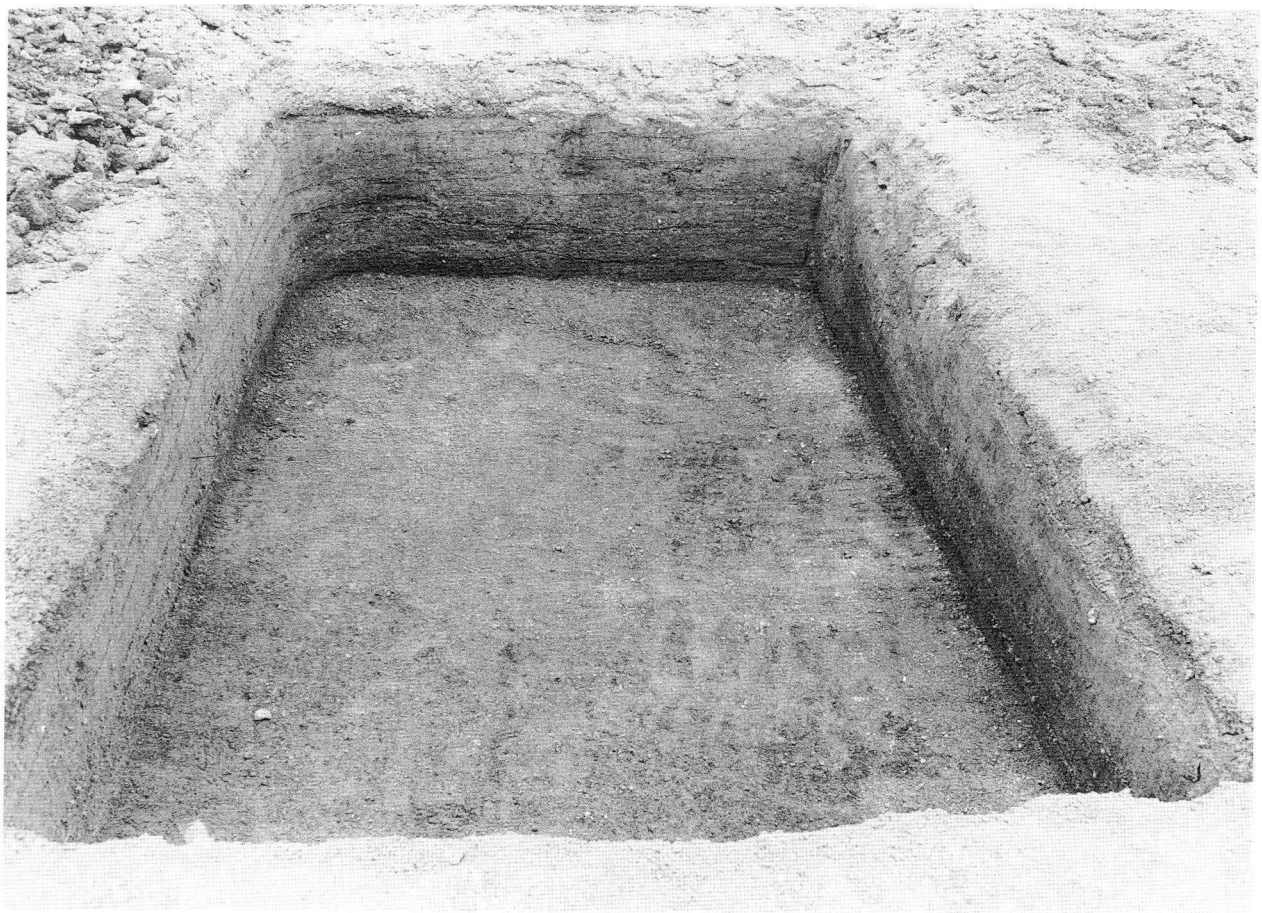
また久保城跡の調査に関しても今回新たな知見は得られなかった。久保城はその付近一帯に残されている小字名等から鎌倉時代に城郭が存在したと考えられているが、その実態は一切不明であり今後の調査に期待したい。また久保城跡の南西約250ｍの地点に所在する久保Ｂ遺跡でも今回目につく成果はなかったが、これまで調査例も少なく、性格・範囲等の究明は久保城跡との関連も含めて今後の課題といえるだろう。

これまで成果の挙がっていない大谷池遺跡、池ノ谷遺跡についても同様で、調査面積が狭いことも含めて成果を得ることはできなかった。今後の調査に期待したい。

本町においては、町内の遺跡群について遺跡毎の諸様相の把握が殆どなされていないのが現状である。詳細な遺跡の範囲を確認することも含めて、今後の我々に課せられた責務といえるだろう。（永井）

図　　版

図版第1　久保B遺跡96—1区

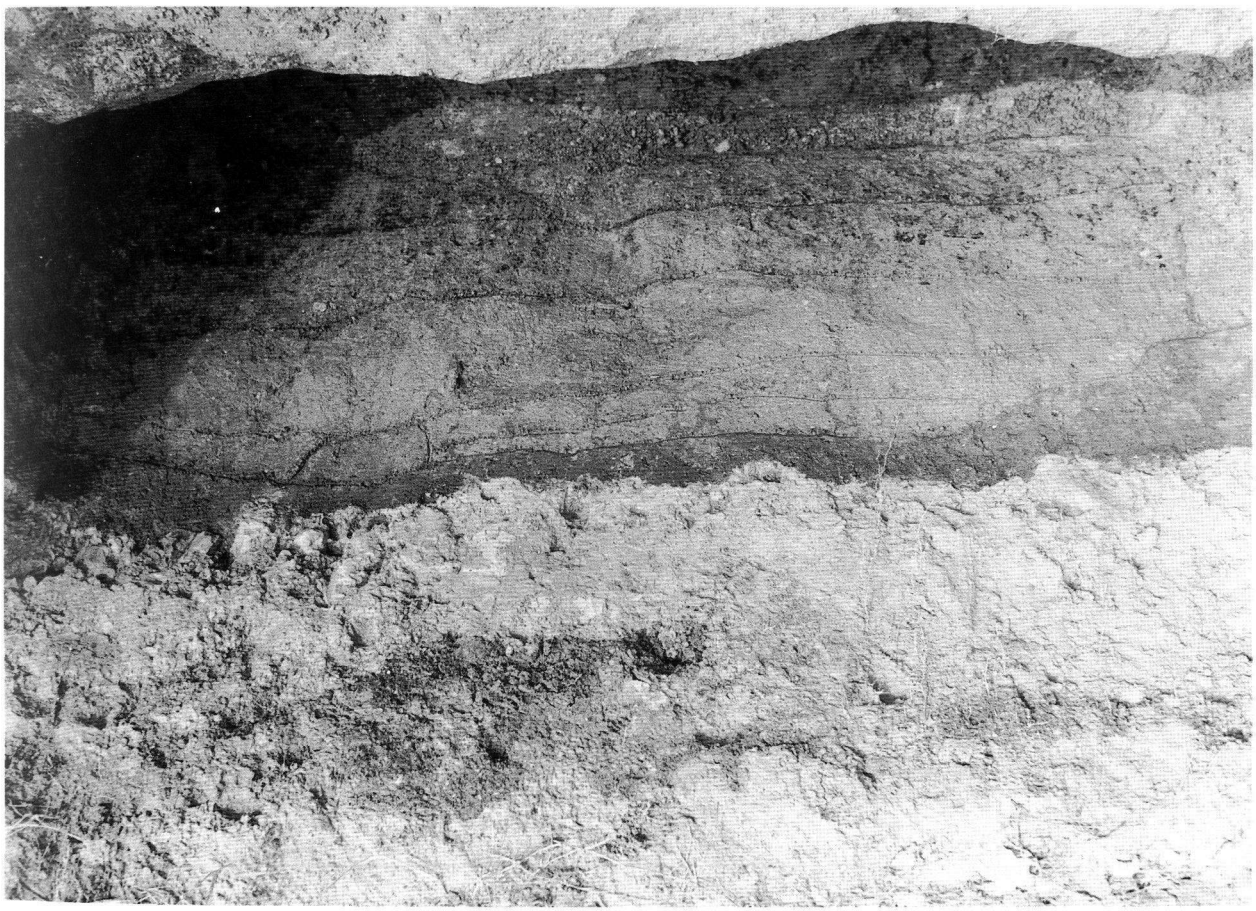


調査区全景

調査区壁面土層断面

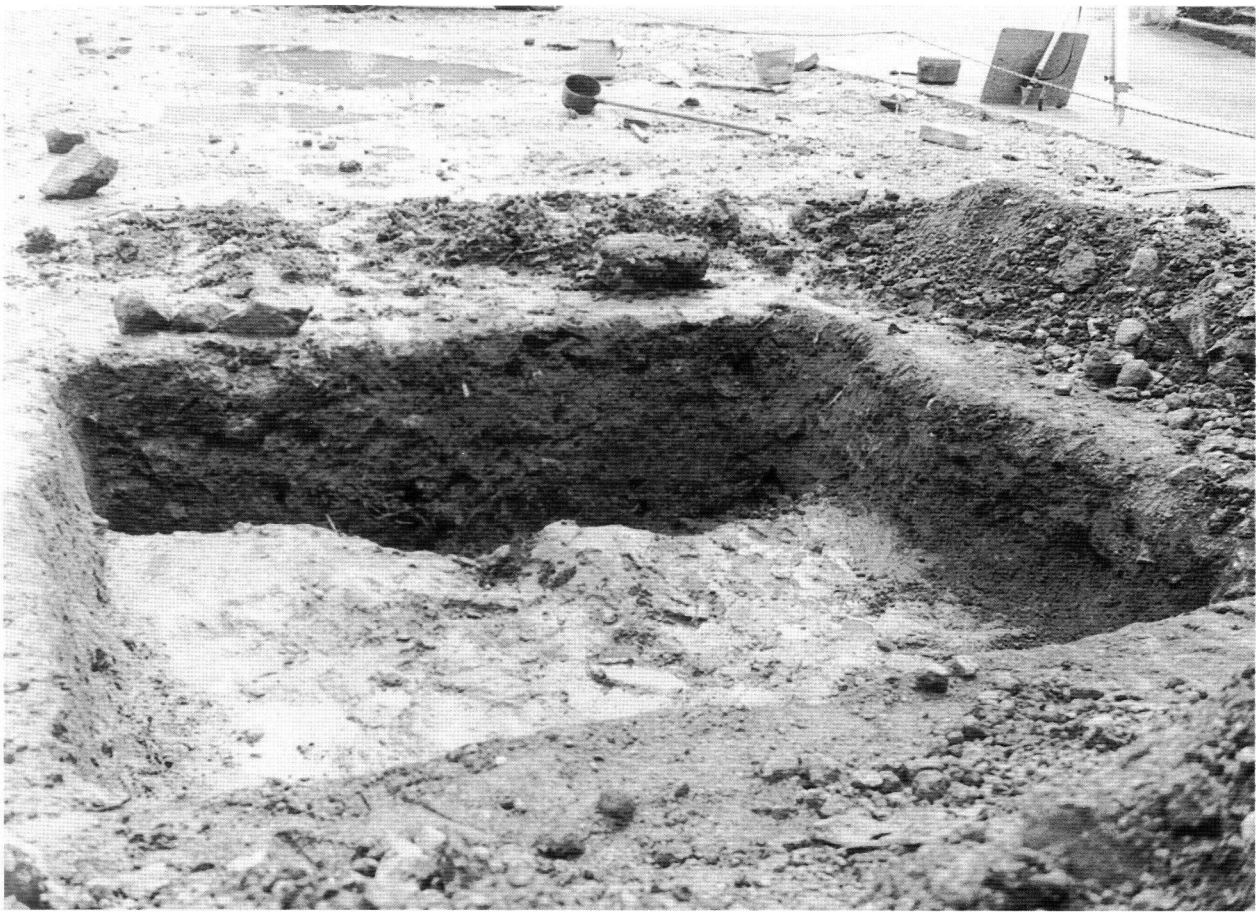
図版第2　東円寺跡96—4区

調査区全景

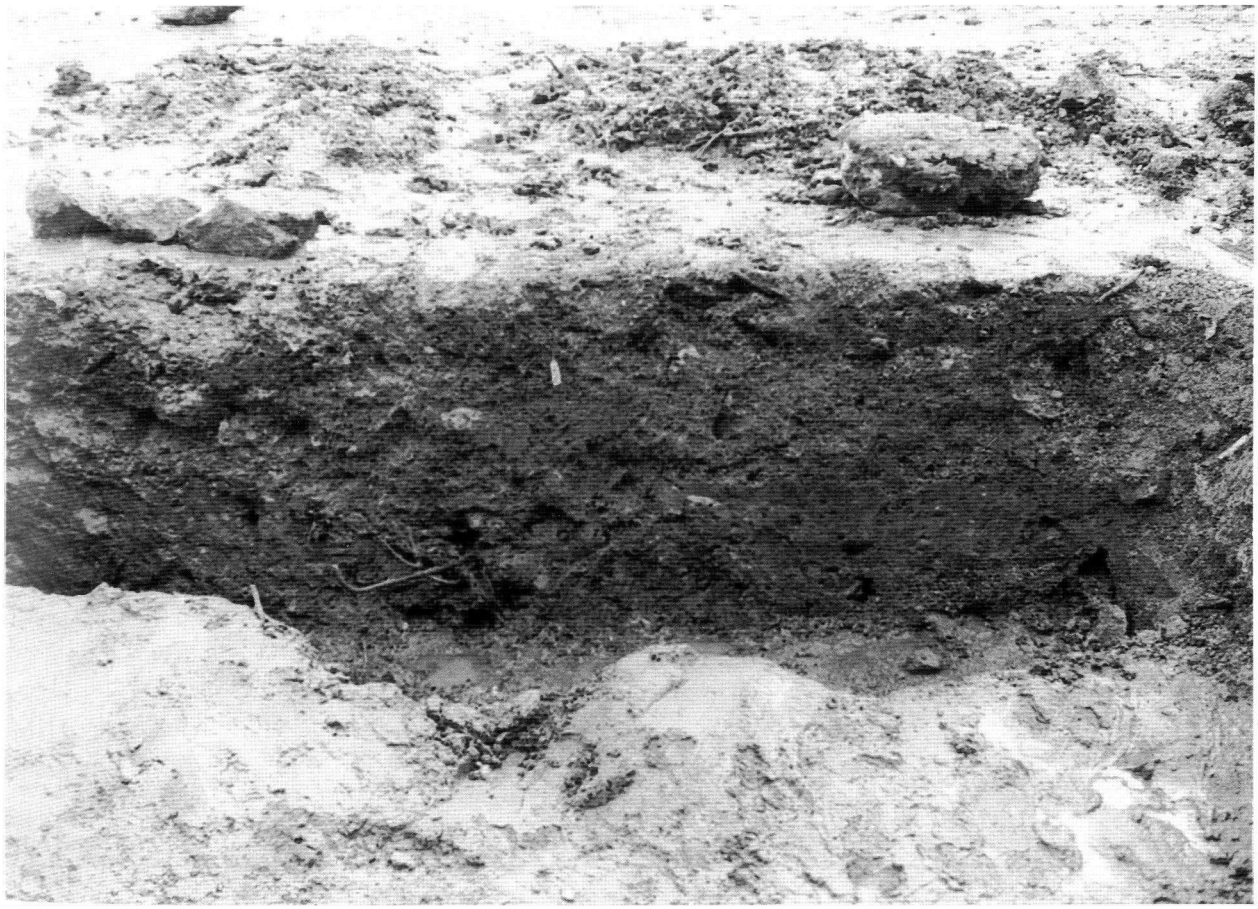


調査区壁面土層断面

図版第3　東円寺跡96—5区



調査区全景

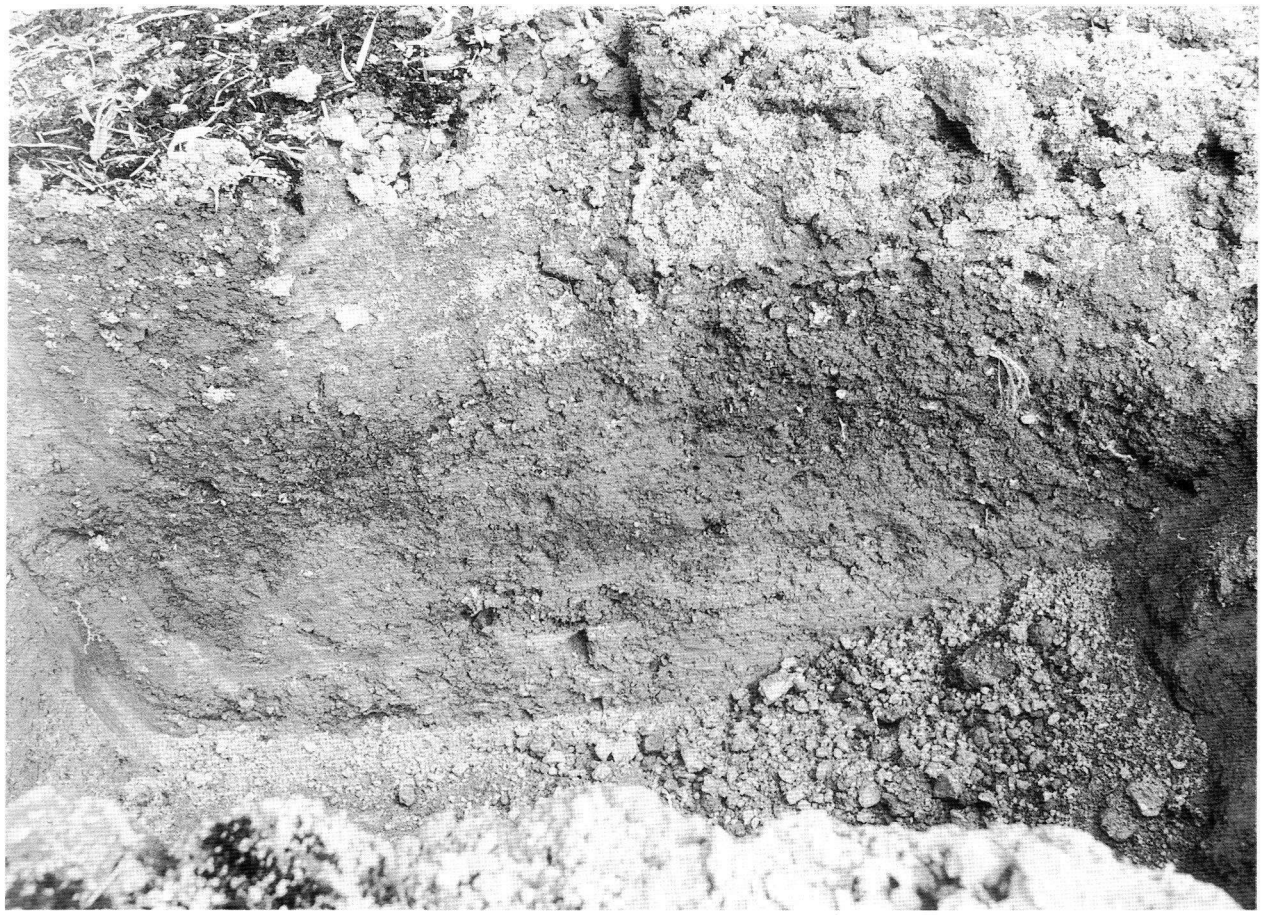


調査区壁面土層断面

図版第4　東円寺跡96—7区

調査区全景

調査区壁面土層断面



調査区全景

調査区壁面土層断面

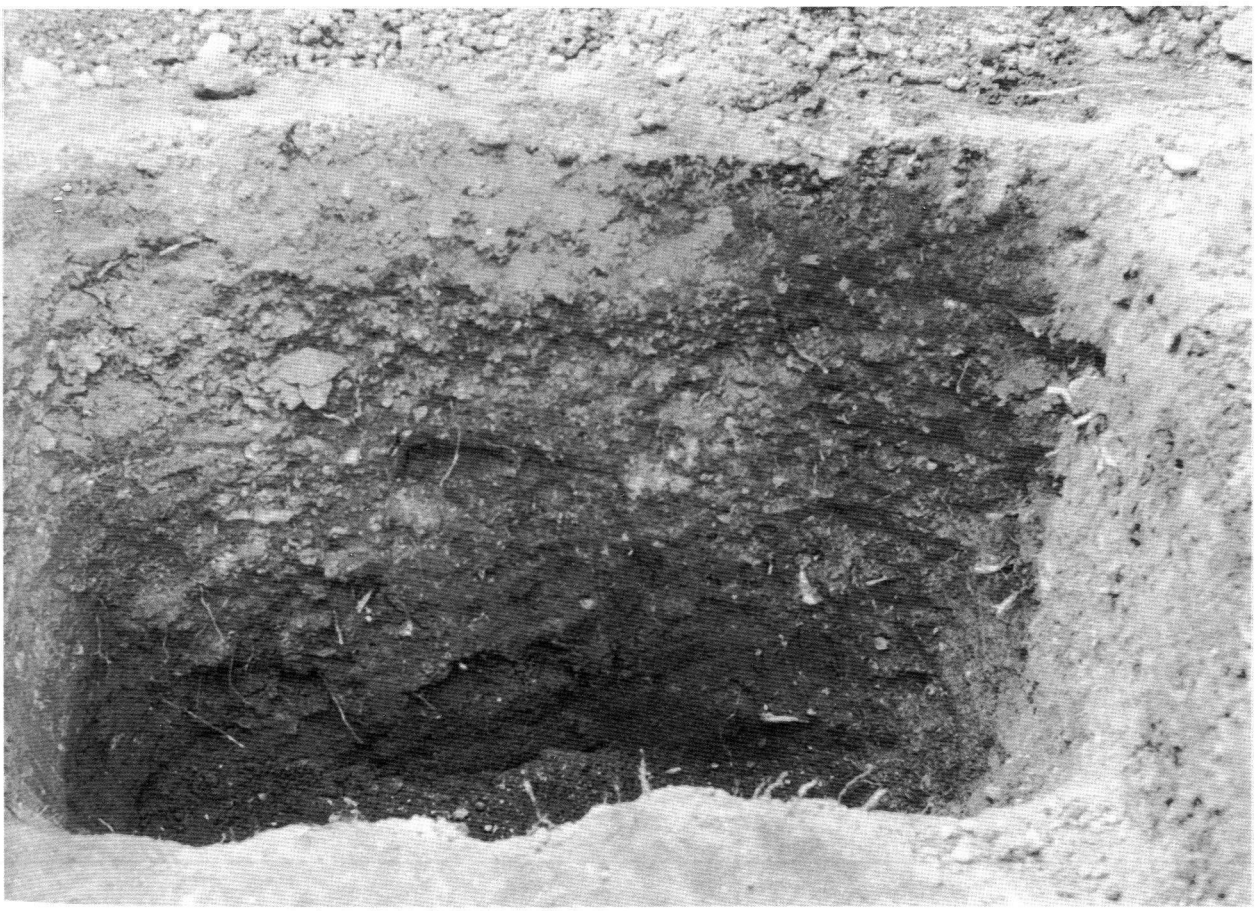
図版第6　久保城跡96—2区

調査区全景

調査区壁面土層断面

図版第7　大谷池遺跡95—1区

調査区全景



調査区壁面土層断面

図版第8　大谷池遺跡96—1区

調査区全景

調査区壁面土層断面

図版第9　池ノ谷遺跡96—1区

調査区全景

調査区壁面土層断面

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書
巻次	XI
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第29集
編著者名	前川　淳・永井　仁
編集機関	熊取町教育委員会
所在地	〒590-04 大阪府泉南郡熊取町大字野田2244番地　TEL0724（52）1001
発行年月日	1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
久保B遺跡 96-1区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうおおあざ 熊取町大字 くぼ 久保1121-3	27361	38	34° 23′ 37″	135° 22′ 10″	19960430	8	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落跡			瓦器・土師質土器・陶磁器	

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
東円寺跡 96-4区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうおおあざ 熊取町大字 のだ 野田2397-1	27361	6	34° 23′ 54″	135° 20′ 20″	19960924～ 19960927	8	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺院跡	弥生～江戸		瓦器・土師質土器	

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
東円寺跡 96-5区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうおおあざ 熊取町大字 こんや 紺屋286-12	27361	6	34° 23′ 50″	135° 21′ 18″	19961007～ 19961009	4	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺院跡	弥生～江戸			

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
東円寺跡 96-7区	おおさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうおおあざ 熊取町大字 こんや 紺屋286-12	27361	6	34° 23′ 50″	135° 21′ 19″	19961015	3	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
寺院跡	弥生～江戸			

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
久保城跡 96-1区	大阪府泉南郡 熊取町大字 久保1582-1	27361	15	34° 23′ 34″	135° 22′ 18″	19961002	6	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
城郭跡	鎌倉							

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
久保城跡 96-2区	大阪府泉南郡 熊取町大字 久保34-1	27361	15	34° 23′ 32″	135° 22′ 18″	19961227	8	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
城郭跡	鎌倉							

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
大谷池遺跡 95-1区	大阪府泉南郡 熊取町大久保 北2-1-2	27361	17	34° 24′ 14″	135° 21′ 06″	19960229	4	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	古墳～江戸							

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
大谷池遺跡 96-1区	大阪府泉南郡 熊取町大久保 北2-238-3	27361	17	34° 24′ 15″	135° 21′ 04″	19961111	3.5	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	古墳～江戸							

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
池ノ谷遺跡 96-1区	大阪府泉南郡 熊取町大字 野田486-1	27361	4	34° 21′ 23″	135° 21′ 42″	19961113～ 19961121	40	個人専用住宅建設に伴う緊急事前発掘調査
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項		
散布地	旧石器							

熊取町埋蔵文化財調査報告第29集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XI

発行日　平成９年３月31日

編集・発行　熊取町教育委員会

大阪府泉南郡熊取町大字野田2244番地

印刷　小笠原印刷㈱